

港区立筈小学校

平成28年度 授業改善推進プラン

教育目標

気づき 考え 進んでおこなう 筈の子ども

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- ・関係法規
- ・教育基本法
- ・都、区教育目標等

- ・学校、地域の実態
- ・保護者や地域の願い
- ・期待される児童像

◇考える力、表現する力の育成のために、国語力の「話す・聞く・書く・読む」を基本にし、言語活動の充実、学習形態をより工夫し実践する。
 ◇各教科において、「自分の考えを修正したり深めたりしながら、より確かなものにする学習活動」となる指導法を工夫し、また、「自分の考えをもち、表現できる児童」を目指し、話し合い活動を積極的に取り入れる。
 ◇個に応じた指導の充実を図るため、算数においてコース別習熟度別学習（第3学年以上）を行う。また、理科の指導では「サイエンスファクト」「サイエンスド・バイ」の活用を図る。
 ◇学習過程の評価、学力テストの結果などを分析し、児童の学力の実態を把握し、指導の改善に努める。
 ◇パソコンなどの機器の有効活用や麻布図書館との連携により、図書館に学習センターとしての機能をもたせ、児童の自主的な課題解決の場とし、学習意欲を喚起する。
 また、全校一斉読書活動（朝読書）や「筈百選」の取り組み、読書月間の設定などにより、豊かな読書活動を進める。
 ◇電子黒板やデジタル教科書、タブレット端末など ICT 機器を活用した授業を全学年で計画的に実施し、児童が興味関心をもって学習に取り組むことができるようにする。
 ◇道徳教育の充実を図り、道徳の授業を中心にして、各教科、総合的な学習の時間、特別活動の特質に応じて、適切な指導を展開していく。

各教科の指導の重点を確実に児童に身に付けさせるため、次の取り組みを行います。

- 道徳教育の指導の重点**
- ◇週1時間の授業を確保し、児童の心を耕す授業を実践する。
 - ◇児童の実態に合った資料選択をし、児童が内容項目、道徳的価値を理解させやすくする。
 - ◇副読本や東京都の道徳教育郷土資料集、道徳教育教材集、文部科学省から出ている読み物資料などを活用し、自己の振り返りを十分に行わせる。
 - ◇学校で共通のワークシートを作成・使用することにより、自分の考えを書くことに対する抵抗を少なくし、習慣化させる。
 - ◇友達の見聞を聞く時間を増やし、考えを共有できるようにする。
 - ◇授業の中で具体例を挙げ、実生活につなげられるようにする。
- 総合的な学習の時間の重点**
- ◇経験や既習事項などから問題を見出し、自ら課題を設定し、解決する力を養う。
 - ◇課題設定の仕方や解決の方法について、見本となる例を紹介し、活用させる。
 - ◇本や図鑑、見学やインタビューなどから調べ学習を進め、自分に必要な内容を選別できるように、資料の読み取り方などを指導する。
 - ◇様々な表現方法（新聞、ガイドブック、パネルセッション、パワーポイントなど）を教えるのと同時に、基本的な発表態度を育てる。
 - ◇個人での学習とグループでの学習を計画的に行い、教え合い、学び合いの場を意識的に増やし、調べる力・まとめる力を養う。

教科名	取組内容
国語	◇表現の前段階としての思考を育むために、考えを整理する場面（ノート・ワークシートへの記入）や、多様な考えに触れる場面（小グループでの意見交流）の場を設定する。 ◇漢字指導や文法指導、メモの取り方などについては、宿題や朝の時間等を用いてドリル学習を行う。また、語彙の習得のために読書活動を奨励する。 ◇話型の提示、小グループでの話し合い、スピーチ活動等を日頃から行う。
社会	◇自分の考えをもつ時間を授業の中で確保し、思考の跡がわかるようなノート指導の工夫をする。 ◇自分で課題を見つける、立てるなどの取り組みをする。 ◇体験を適宜入れ、知識だけに終わらないようにする。 ◇資料の見方をていねいに扱う。
算数	◇3年生以上は習熟度別クラスでの学習を通して、学力に応じた授業を展開し、力を付けていく。 ◇授業の中で問題を解く際に、既習事項を活用して考える事を習慣化し、考える力の育成を図っていく。 ◇習熟度別クラスで文章問題を精選し、必ず児童に取り組みさせる。その後、自分の考えを表現できる場を設定し、表現することを通して理解を確かなものにしていく。 ◇四則計算の基本的な仕方プリントやドリルを活用して繰り返し学習して習熟を図っていく。 ◇児童の関心意欲を高めるために、学習内容を視覚的に提示したり、様々な考えを共有化したりするなど ICT 機器の効果的な活用を図っていく。
理科	◇ノート指導をしっかりと定着させ、学んだことや思考の流れを視覚的に分かるようにする。 ◇実験をする前に予想をたてさせる。 ◇知識の定着だけではなく、体験活動を充実させて応用力につながるような指導の工夫をする。 ◇どんな実験をすれば課題を解決できるか、実験から考察を出し、実生活に結び付ける指導をしていく。
生活	◇季節ごとに公園に行って、観察したり落ち葉や木の実を拾ったりする活動を意図的にいれる。 ◇新しい見学場所を開発し、校外に出る活動を計画的に行っていく。
音楽	◇低学年では、基礎的な表現や鑑賞の能力を育てるために、友達と一緒にロザンダリズム遊びをしたりすることのできる「魅力ある教材選択」を工夫する。 ◇中学年では、「聴くことから感じる学習活動」を多く取り入れ、気づき、工夫し、表現に生かすことができるよう、継続的な指導を行う。 ◇高学年では、中学年までに身に付けた能力を基に、「思いや意図をもった表現」を工夫することができるように、言語表現と音楽表現両方での意見交換を取り入れた授業を工夫する。 ◇すべての学年において、表現の基礎となる音楽の知識を積み重ねるとともに、「言語による表現活動」を有効に取り入れ、児童の思いを引き出し、音楽表現に生かすことができる授業を工夫する。 ◇発言力を高められるように、個人の考えをまとめた後、グループで意見交換をしてから発表する機会を設けるなど、児童が発言しやすい手順を工夫する。
図工	◇低学年では、五感を使った造形体験を多く取り入れたり、いろいろな材料に出会わせ、発見したり、発想が広がるように授業を工夫していく。 ◇中学年では、絵の具の重ね塗り、道具の扱いなどの、基本的な技術指導を計画的に行っていく。更に、造形的な体験を増やし、発見したり、発想が広がったりするように授業を工夫していく。 ◇高学年では、「自分らしい表現とは」を考えさせ、計画段階で個別指導すると共に、発表の場を設け意欲の持続を図る。 ◇すべての学年で、鑑賞活動の充実を図り、地域の美術館等との連携を積極的に行っていく。
家庭	◇学校で学習したことを、家庭でも実践できるように計画を立てさせ、実践後の振り返りも行う。 ◇保護者会や学年だより・学級だよりなどでも保護者にも協力を呼びかけ、家庭生活をよりよくしようとする態度を育成するために、家庭での実践や経験の必要性を伝えていく。 ◇長期休みなどを利用して、家庭の中で自分の役割をもつよう促していく。
体育	◇のびのびタイムなど、全校児童が一斉に運動に取り組む時間を設定し、運動に親しむ態度を養う。 ◇低学年の頃から、さまざまな種目の運動に取り組みさせ、基本的な体の動かし方を身に付けさせる。 ◇学習カードを利用して、できるようにしたことを明確にする。 ◇年間を通して、長縄・短縄・持久走などに継続して取り組み、持久力を高める。 ◇補助運動でバランスを保つ運動や筋力を持続する運動を取り入れる。
国際科	◇NTと担任とが連携し、英語の理解が難しい児童を支援する。 ◇本時の内容を NT と確認し、担任が習得状況を把握し、活動の前に練習を十分に行う。 ◇低学年は、歌や絵本を取り入れ、楽しく活動できるようにする。 ◇高学年は、単語や会話の習得に力を入れ、文字指導もフォニックスを活用して行う。 ◇振り返りカードを活用し、児童の実態を把握し、指導に生かしていく。

- 生活指導の重点**
- ◇日々の児童とのふれあいの中から個々の児童の特性や心情を的確に捉え、一人一人に応じた指導の充実を図る。
 - ◇あいさつや返事、片付けなど基本的な生活習慣の確立や相手を尊重する言葉づかいや態度が身に付くよう、継続性のある指導に努める。
 - ◇時間を守って行動することを児童に意識させる。遅刻が多い児童は個別に指導し、保護者にも連絡をする。
 - ◇児童の学校生活や校外生活について、学校、保護者、地域関係機関が常に情報交換できるようにし、学校・家庭地域が一体となつて児童のよりよい生活を築くように努める。
 - ◇PTA と協力して通学路点検を行い、交通面や安全面で気を付ける所を明確にして保護者・児童に伝える。
- 進路指導の重点**
- ◇中学校での体験授業や縦割り班、行事活動などを通じて自分自身を振り返る機会を設け、自らの個性や長所に向け、未来への希望を育む。
 - ◇様々な人の生き方について話を聞いたり、職業について調べたりする中で、今後の自分の生き方について考えを深めさせる。
 - ◇各教科や道徳、総合的な学習の時間など、全教育活動を通じて未来への夢を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○朝読書を実施し、読書に親しむ時間を増やす。また、読書月間や筈百選の取り組みにより、読書活動を充実させる。 ○年17回、土曜日に授業を実施し、授業時数を確保する。 ○毎月の時数管理を徹底し、適切な実施に努める。 ○夏休みにサマーチャレンジを実施し、児童の興味関心に基づいた活動を行う。 ○食育として1年生が給食の材料（皮むきなど）を準備する活動を行う。	○体験的な学習活動、問題解決学習を重視し、積極的に授業改善に取り組む。 ○算数では習熟度別の少人数学習を実施し、個に応じた指導を行う。 ○SA と連携し、実験や観察などの学習の充実を図る。 ○RAS と連携し、調べ学習やまとめ学習など資料を活用した学習の充実を図る。 ▲デジタル教科書やタブレット端末などの ICT 機器を活用し、児童の学習意欲の向上を図る。	○教科書改訂に伴い、新たに作成した評価規準に基づいた学習指導を実施する。 ○プレテストや小テストを実施し、学力の定着を確認しながら指導を進める。 ▲児童による自己評価・相互評価を取り入れ、授業での評価活動を工夫する。	☆研究テーマを「児童の思考を育てる算数指導の工夫～話し合い活動を通して～」とし、児童がお互いの考えを交流し合う中で、自分の考えをもち、友達との考えと比べ、自分の考えを広げたり深めたりできるようにしていく。 ○高陵アカデミーとして、幼小中合同研修会や連携の取り組み（子どもサミット、あいさつ運動など）を行う。 ○OJT を充実させ、指導力や授業力の向上を図る。	○年3回、学校公開を実施する。（土曜日を含む） ○学校だより、学年だより、ホームページなどにより、適宜適切に情報提供を行う。 ○高陵地区委員会と連携し、地域活動への参加協力をする。 ○教職員や学校評議員、保護者による学校評価を学校運営に生かす。 ○12月の避難訓練を地域や関係機関と連携し、防災訓練として行う。

☆→今年度からの取組

○→定着・継続している取組

▲→活性化が必要な取組